

# 2022年度 港南台保育園 自己評価

今年度の3つの重点目標にどう取り組んだのか振り返ります

## 子ども主体の遊びの充実

子どもたちが好奇心をふくらませて主体的に遊び、いきいきと生活する保育園を目指して、そのための環境づくりについて考える取り組みを昨年度より始めました。

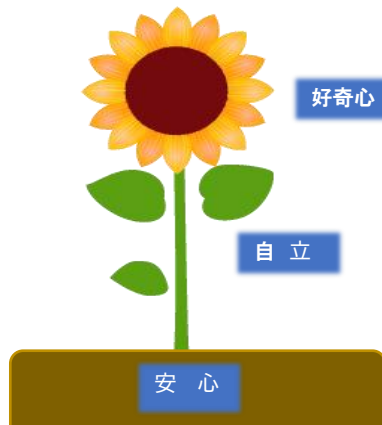
目の前の子どもの姿から「どんな気持ちで遊んでいるんだろう」「どういう願いがあるんだろう」と想像し、その願いをかなえ、さらに遊びを広げるためにはどんな環境づくりが必要なのか、「遊びのワーク」としてクラスごとに話し合い、それを毎月の保育会議で発表しました。「こういう見方もあるのでは」「こんなアイデアもあるよ」と意見を出し合うことで、他クラスへの理解が深まったり、クラス間、職員間の協働が生まれるきっかけとなりました。

また、取り組み2年目として、昨年度以上に実践につなげることを意識し、その成果は年度末にドキュメンテーションとしてまとめました。そこに描かれた子どもの姿の中に「幼児期の終わりまでの育ててほしい10の姿」を探す作業を皆でして、実践の評価としました。

子どもの思いを捉える力、アイデアを膨らませる力、実践力……さまざまな面で自分たち自身を育てる取り組みになったと思います。

次年度はこの「子どもファースト」の視点を指導計画の中に盛り込み、継続的な実践につなげていきたいと考えています。

安心の土台の上に  
生活が自立に向かい  
好奇心の花が咲く保育をしよう！



## 安心安全な保育の追求

前年度研修で学んだことや日頃の危機意識をもとに、リスクマネジメントに関する4つのテーマ（散歩、ヒヤリハット、園庭環境、不審者対応）でプロジェクトを立ち上げました。

テーマごとに今の課題と具体的な対策を話し合い、年度末に全体で共有して、マニュアルの改訂や新しいルール作りにつなげました。

プロジェクトを通し、安心安全な保育について職員一人ひとりの意識が高まったとともに、クラスやキャリアを越えて意見を発信し合う関係性が少しずつ築かれてきたと思います。

散歩プロジェクトと不審者対応プロジェクトは、メンバーから次年度も継続して取り組みたいとの声が上がっており、より具体的な改善への取り組みが行われる予定です。



## クラスやキャリアを越えた 職員の協働

上記プロジェクトや園だよりのコラム作成などを通して、クラスやキャリアを越えた職員の協働をすすめました。コロナ禍でコミュニケーションがとりづらい中、関わり合う機会にはなりましたが、職員集団の中で若手職員がもっともっと考えを発信できるとよいという反省もありました。

職員一人ひとりがそれぞれの良さを発揮し活躍できる職場を目指し、次年度も様々な枠組みで関係性の構築と協働を目指します。

